

日 時 令和2年7月29日（水）
授業場

生 徒 3年生
授業者

1. 単元名

登場人物のへんかに気を付けて読み，感想を書こう 『まいごのかぎ』

2. 単元の目標

- (1) 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，登場人物の変化について，自分の考えを伝える根拠として用いることができる。
- (2) 物語を読んで，内容を説明したり，考えたことを伝え合ったりする活動を通して，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像することができる。
- (3) 物語の叙述を基に，思ったことや考えたことを伝え合い，物語に対する自分の興味を広げていこうとする態度を養う。

3. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 様子や行動，気持ちや性格を表す語句を用いて，登場人物の変化について，自分の考えを伝えることができる。	ア 登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像している。	ア 進んで，登場人物の気持ちの変化について，場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像し，学習課題に沿って感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。

4. 単元のデザイン（全8時間）

次	○学習活動 ・学習内容	手立て	評価の観点		
			知	思	態
1	○「まいごのかぎ」とはどんな鍵なのかを予想し，教師の範読を聞く。 ○初読の感想をノートに書く。 ○単元全体の学習課題を設定する。 「この物語のおもしろさは何だろう？」	●初読の感想を書いた後に，物語のおもしろさを100%見つけ出せたかと問い返すことで，『まいごのかぎ』に対する自分の見方をどんどん更新していこうとする意欲がもてるようにする。		ア	ア
	○りいこの性格や人柄について話し合う。	●イメージマップを用いて，複数の叙述をつなぎながら考えられるようにする。	ア	ア	
	○物語を場面分けする。 ○教師が提示した2つの物語の続きについて，どちらがより妥当かを検討し，「ファンタジー」の構造に気付く。	●場面の数を7つと限定することによって，時間の移り変わりを表す語句や，出来事のまとまりに注目し，妥当な区切り方を検討できるようにする。 ●「もしもこのお話に続きがあったら」と仮定の出来事を設定し，不思議な出来事が続く場合と，現実の出来事が起きる場合の2つを比較させることで，ファンタジーの構造に気付けるようにする。		ア	
2	○様子や行動，気持ちを表す言葉に注目しながら，各場面を「+」か「-」に分け，登場人物の気持ちの変化を捉える。	●各場面を「+」と「-」のどちらかと問うことで，複数の叙述を基に，登場人物の気持ちの変化を捉えられるようにする。	ア	ア	
	○りいこがした「よけいなこと」は全部でいくつあるかについて考え，話し合う。 ○登場人物の「よけいなこと」に対する捉え方が変化していることに気付く。	●「よけいなこと」を探して出し合った後に，「よけいなことは一つもない」という他者の考えを提示することで，登場人物の変化に気付けるようにする。		ア	
3	○これまでに見つけた物語のおもしろさを基に，まいごのかぎの感想を書く。	●初読の感想と比べて，いくつおもしろさを見つけたかについて問う。その際，登場人物の変化に気を付けて読むことの良さについて価値づける。		ア	ア
	○感想を聴き合うことで，自他の感じ方の違いに気付く，物語に対する自分の見方を更新する。	●単元を振り返り，どのように物語を読むことで，感想が深まっていったのかを整理し，汎用的な力となるよう価値づける。			ア

6. 本時の展開 (6/8)

(1) 本時の目標

りいこがした「よけいなこと」は全部でいくつあるかについて考え、話し合うことを通して、物語終盤で「よけいなこと」に対するりいこの捉え方が変わることに関付き、登場人物の変化についてわかったことを、ノートに書くことができる。

(2) 本時の展開

学習活動 児童・生徒の姿 教師の働きかけ (○発問, △補助発問, □指示・説明) 手立て	【評価の観点】 ◇評価の内容 ・指導上の留意点
<p>1. 本時の問題と出会う。 ○穴の開いた場所にはなんという言葉が入るでしょう？ ・教科書から探す。 ・かんとんだよ。 ・「よけいなこと」でしょ。 ○りいこがした、よけいなことは、全部でいくつでしょう？ ・本時の問題をノートに書く</p> <p>2. 本文を読んで、「よけいなこと」を探し、ノートに書く。 □1, 2場面を「よけいなこと読み」します。りいこが「よけいなこと」をしていると思ったら、拍手をしてください。 ・「しょんぼりと歩きながらつぶやきました」で拍手をする。 ・そこは関係ないよ！ ・「かわいいうさぎを付け足しました。」で拍手をする。 ・「あわてて白い絵の具をぬってうさぎを消しました」で拍手をする。 ・えっ？それも「よけいなこと」なのかな…？ □続きは自分で音読します。「よけいなこと」を探しながら読んでください。 ・個人で音読をする。 □りいこがしていた「よけいなこと」を、ノートに書きましょう。 ・さくらの木にかぎをさした。 ・ベンチにかぎをさした ・魚にかぎをさした ・バス停の看板にかぎをさした ・絵にうさぎを付け足した。 ・かぎを拾った</p> <p>3. 「よけいなこと」はいくつあるかについて話し合う。 □りいこはいくつ「よけいなこと」をしていましたか？教えてください。 ・2の活動で見つけた「よけいなこと」を伝え合う。 ・うんうん ・納得 ・あっ、それもあつたか！ ・えっ、それもよけいなこと？ ・りいこはよけいなことを一つもしていないと思うな…。 ・りいこのおかげで、みんな楽しめたんじゃないのかな。</p> <p>△実は、3年1組の中村先生は、「りいこは一つもよけいなことをしていない」と言っているんですよ…。なぜだと思いますか？～Ⅱ ・えっ？それはおかしいよ。 ・よけいなことしてるよ。 ・どうしてだろう… ・あっわかった！ ・りいこのおかげでみんな遊べている！ ・みんなの気持ちにりいこが気付いたんだ。 ・よけいなことじゃない！</p> <p>4. 本時のふり返りをする。 □りいこは、最初と最後でなにが変わったか、ノートに書きましょう。 ・りいこの考え方が変わった。 ・よけいなことだと思っていたことが、よけいなことじゃないと思直した。 ・よけいなことばかりしてしまうと思って落ち込んでいたりいこが、最後は自分のしたことがよけいなことじゃなかったことに気付いて、元気を取り戻していた。</p>	<p>・空所を作ってセンテンスカードを2枚提示する。</p> <p>・教師が1・2場面を範読し、児童が拍手することで、「よけいなこと」とは何かを、全体で確認していく。</p> <p>・拍手をする場所でズレが生まれることが想定されるため、必要に応じて理由を尋ねる。</p> <p>・「○○をした」という書き方を提示することで、どの子も書きやすいように支援する。</p> <p>・児童の考えで「0」という立場が現れなかった場合は、補助発問で、仮定の存在を登場させ、考えをゆさぶる。</p> <p>【思・判・表】 ◇登場人物の変化についてわかったことを、ノートに書いている。</p>

■ 国語科におけるリーダーシップ・フォロワーシップの育成について

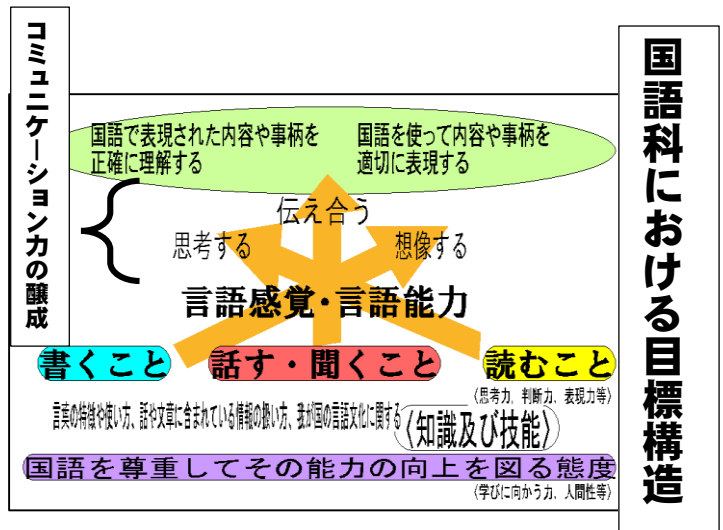
国語科における Ls/Fs 育成のポイントは「コミュニケーション力」

＜国語科で目指す子供の姿＞

国語科では教科目標の柱立てにおいて、「社会生活」に生きる資質・能力の育成を謳っている。すなわち、単元ごとのねらいとする指導事項を達成するために、日常生活や社会生活と効果的に関わらせた言語活動が不可欠である。

そして、各領域を通して言語感覚を豊かにしたり、言語能力を向上させたりする際には、生徒相互の関わり合い（コミュニケーション）が生まれる。学習指導要領解説にも、思考力や想像力は「認識力や判断力などと密接に関わりながら、新たな発想や思考を創造する」とある。それらは自他や他同士の比較、練り合いにより育まれるものである。

従って、国語科の中で発揮し、育む「コミュニケーション力」とは、学習課題やそれに伴う「言葉」について、自己の認識や判断をもとに、思いや考えを他者と共有する力であると捉える。



国語科における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

- (1) 日常生活や社会生活と結びつけ、「解決したい」「現段階では考えが不十分だ」といった学びの必要性を生み出す課題設定～Ⅰ
- (2) 自他や他者同士における「言葉による見方・考え方」の比較や統合を促す発問・問い返し・指示（条件提示）～Ⅱ

(1) 日常生活や社会生活と結びつけ、「解決したい」「現段階では考えが不十分だ」といった学びの必要性を生み出す課題設定

単元導入時には、領域の特性や教材の一部を取り上げながら、ここで身につける力が自身の生活や将来の場面等において、どのような汎用性をもつか見通すことができるよう課題を設定する（発達段階によっては、単元終末時にリライトすることにより、結びつきを強く自覚させる場合も）。また、各一単位時間の学習課題についても、単元課題との有機的な結びつきを明確にしながら設定することにより、生徒が学びの必要性を維持することができる。「コミュニケーション力」が育まれる場面の前段としての「自己の認識や判断」を自律的に獲得するための手立てである。

(2) 自他や他者同士における「言葉による見方・考え方」の比較や統合を促す発問・問い返し・指示（条件提示）

単元を通じた課題や一単位時間における課題に対し、個々の生徒が「自己の認識や判断」、あるいは小集団学習における役割を獲得した後に、集団思考（小集団活動の場面を含む）を通して自他や他者同士の意見を比較したり、組み合わせたりしようとすることを促す発問・問い返し・指示（条件提示）等を行う。（1）の手立てにより、他者のもつ言葉の感覚や課題における最適解を求める姿勢は、すでに生まれていると考えられる。したがって、発表や話し合いの意味づけや条件づけをその都度明確にする働きかけを行うことで、能動的な関わり合い（コミュニケーション力の発揮・伸長）が生まれるであろう。また、課題に対する「立場」やその「根拠」を、生徒の発言で共通点や相違点等を整理しながら解決に向かわせるよう発問・問い返しを吟味し、適宜講じる。これにより、「思いや考えを他者と共有し」ながら、本時あるいは単元の目標に近づいていくことになると考える。

■本時で目指す児童・生徒の姿

今日の授業における「コミュニケーション力」を高めるためのポイント

「りいこ」が行った「よけいなこと」は「本当によけいなことだったのか」について、叙述や場面の移り変わり結び付けながら話し合う活動を通して、「りいこ」自身の出来事に対する捉え方が変化していることに気付いていく姿。

■本時のポイント

今日の授業における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

①自他や他者同士における「言葉による見方・考え方」の比較や統合を促す発問・問い返し・指示（条件提示）～Ⅱ

本時では、展開後半で仮定の存在（他者）の考えを提示し、児童の思考にゆさぶりをかける。そうして、自分の考えとのずれに出会うことで、他者がなぜそう考えるのかを追思考し、登場人物に対する認識を更新させていく。

実は、3年1組の中村先生は、「りいこは一つもよけいなことをしていない」と言っているんですよ。どうしてでしょうね？



えっ？そんなはずないよ。よけいなことはたくさんしていたよ。

そうだよ。校舎の横にうさぎを描いたり、桜の木にカギをさしたりしていたよ。



そうですよね。でも、りいこがうさぎを描いたことも、桜の木にカギをさしたことも、全て「よけいなこと」ではないと言うのです。



どうしてそう考えたんだろう？
りいこは自分で「よけいなこと」って言うけど…

あっ、もしかして、みんな楽しそうだったから…？



えっ？どういうこと…？よくわからないなあ…。

えっと、りいこは「はっと気付いたのです。」って書いてあるでしょ。だからこの時に、みんなの気持ちに気付いたんだよ。



あっ！そっか！りいこがかぎをさしたことで、みんな自由に楽しめたんだ！確かによけいなことじゃないかも！

今、二人が言いたかったことはどういうことでしょうか？
ペアの人と確認してください。



えっと、りいこがかぎをさしたから、みんな自由になれたんだよね。それで楽しめたから、よけいなことではなかったってことかな。